

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1273500312
法人名	有限会社シーシー商会
事業所名	グループホーム にこにこ滝台
所在地	〒289-1123 千葉県八街市滝台1807番地 (電話) 043-445-1106

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	平成21年5月31日

【情報提供票より】(平成21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤専従4人・常勤非専従1人、非常勤23人、常勤換算 10.3人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨プレハブ造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費20,000、理美容・オムツ代など実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	有(2年間で償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	9名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.8歳	最低	62歳	最高	87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武村内科医院・都賀デンタルクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>自然の豊かな地にある2階建て2ユニットのグループホームである。リビングダイニングには、手作りの装飾、入居者の似顔絵などが飾られアットホームな雰囲気があり、入居者の好みや状況に合わせた食事を、職員と入居者が一緒に楽しんでいた。居室には入居者の意向にそって、使い慣れた家具や小物などが持ち込まれている。ホームのオーナー、管理者や職員は、地域住民が多く、自然と近所づきあいのできるような状況の中で、地域に密着した生活感のあるホームの運営を行っている。職員は向上心が高く、評価当日には2人の職員のもとに介護福祉士の合格発表が届けられ、入居者とともに喜んでいた。</p>

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題項目については、管理者が中心となり着実に改善の方向に向けられている。しかし、改善には中長期的な課題も含まれているために今後も継続的に取り組まれることを期待する。地域密着型サービスの理念への取り組みについては、職員とともに議論を重ねて新たにホーム独自の理念を作り上げた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者とユニットリーダーが中心に自己評価を行なった。前年度の評価結果は職員に読んでもらうようにしたが、職員によっては評価項目の意味の理解に差が見られた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、行事やホームの状況報告、ホームから地域に支援できることやホームからお願いしたいことなどをテーマに上げている。これにより、ホームと地域の相互交流が深まるなどの効果が出てきている。また、その内容を回覧版で地域に回すことで情報の共有を図っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の訪問時など、気軽に話してもらえるような関係を大切にしている。家族には手紙や訪問時等で常に問いかけ、職員が忙しくないなど、家族が声をかけやすい雰囲気づくりに配慮している。出された意見や要望は直ぐに検討し、出来る限りホームの運営に反映させるように努力している。その結果についても必ず報告するようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームのオーナー、管理者や職員は、地域の住民が多く、自然と近所づきあいのできるような状況である。地域の行事には積極的に参加し、散歩時には地域の人々と挨拶などで交流を深めている。また、近くにある二州小学校の社会見学場所として小学3年生の授業を受け入れたり、自治会や老人会に参加し、地域交流を行っている。地域の「子ども110番」に協力するなどしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのかかわりを大切にした地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。また、入居者一人ひとりの豊かな人生経験と尊厳を重視した、家庭的な雰囲気大切にしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や介護の基本などは目につくところに掲示し、職員間で共有するために会議等で確認している。管理者は常に理念の理解と、その実践に“共感”できる機会を提供しようと考え、日々の入居者との関わりの中で、理念を生かしたケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には積極的に参加し、散歩時には地域の人々と挨拶などで交流を深めている。また、近隣小学校の社会見学場所として提供したり、自治会や老人会に参加している。地域の「子ども110番」にも協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者とユニットリーダーが中心に自己評価を行なった。前年度の評価結果は職員に読んでもらうようにしたが、職員によって評価項目の意味の理解に差が見られた。		自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かした計画的な取り組みが望まれる。改善項目に明確な優先順位をつけて会議等で具体的に話し合い、改善に取り組む必要があると思われる。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事やホームの状況報告、ホームから地域に支援できることやホームからお願いしたいことなどをテーマに上げている。またその内容を回覧版で地域に回すことで情報の共有を図っている。今後は計画的な開催があると更に良いと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのオーナーと管理者を中心に市町村担当者との連携を深めている。管理者が講習を受けて認知症サポーターとして登録し、相談に当たるなど、地域にあった“サービスの質”を高める取り組みを行うために、市町村担当者との連絡は常に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年1回の「にこにこだより」、月1回ホームの暮らしぶりや健康状態、金銭管理の報告を郵送している。行事などについては写真を添えるなどの工夫をしている。家族の訪問時には気軽に話ができるような関係を大切にしている。家族には職員の思いが伝わるように、入居者の状況説明時に日々の発見などを伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や訪問時に問いかけ、何でも言って貰えるような関係づくりのために、職員が忙しくないなど配慮している。出された意見や要望は直ぐに検討し、出来る限りホームの運営に反映させるようにしている。その結果についても必ず報告するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職によって担当が代わる場合は、急に代わるのではなく、馴染みの職員が担当し、新しい職員には実習期間をもうけるなど、入居者への影響を軽減する工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成を積極的に行っている。認知症研修、救急救命講座、介護福祉士資格取得奨励などの支援をしている。新しい職員はOJTで1か月ほどの研修を行っている。しかし、職員の経験や知識に応じた研修が十分に実施できている状況ではなく、今後は計画的に研修を実施していきたいと考えている。		計画的に段階に応じた研修を実施するには、職員のレベルを把握し、個別に求められる知識やスキルを抽出する必要があると思われる。また、トレーニングを受ける職員と教える職員が目的を共有できる仕組みがあると効果が高いと思われる
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県のグループホーム連絡会に入り、同業者交流の機会を持つようにしている。また、オーナーが千葉県に複数のグループホームを経営していることもあり、同業者交流には積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時には家族と共にホームで過ごしてもらい、自然に溶け込むことができるよう時間をかけて対応している。体験入居も取り入れ、本人の気持ちの確認などを行いながら、本人と家族が安心してサービスが利用できる関係づくりを重要視している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の希望を尊重して、できる限り入居者自身でできることは、してもらうよう見守りながら支援をしている。生活を一緒に楽しみ、教え教えられている関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や入居者の居室に行き個別に話しを聞く中で、入居者の思いや希望、意向の把握に努めている。また聞き取りが困難な場合は、家族からの意見も取り入れ、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの状況に応じて担当者会議を開き、本人、家族、職員の意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを月に1回、介護計画の見直しを半年に1回定期的に行っている。入居者の状態に変化が生じた場合には、早急に関係者と話し合い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や入院時の付き添い、買い物同行など入居者や家族から要望には柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医へ月1回の定期受診を行い、緊急時の受診体制も整っている。入居前のかかりつけ医の受診も可能であり、入居者や家族に聞き、希望する受診が出来るように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者の状態や今後について、医師からの情報をもとに、医師、家族、ホームの連絡を密に取り合い方針を共有しているが、看取り方針の作成までにはいたっていない。		ホームとしての看取り方針を作成し、入居者、家族、職員等でその方針を共有していくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は事務所で管理され、取り扱いには注意している。認知症高齢者介護の基本を職員の見えるところに掲示し、管理者が中心となって入居者への対応方法をより良くしようとする姿勢が見られるが、もう少し羞恥心に配慮した声かけができると良いと思われる。		一人ひとりのトイレ誘導など、主に入居者の羞恥心に関わる面でのさらなる配慮が期待される。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっているが、入居者一人ひとりのペースを大切に、希望によっては食事や入浴の時間をずらすなど出来る限り希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で準備や下膳を、入居者に協力してやってもらっている。普段は職員が食材に応じて献立を考え、調理しているが、入居者の誕生日にはケーキや希望のメニューを用意するようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を決めているが、入居者一人ひとりの気分や状態、希望にできるだけ沿えるよう、入浴日や時間の調整に柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者には居室の掃除や下膳・茶碗拭き・洗濯物の畳みなど出来る範囲でもらっている。特別支援学校の生徒の実習の受け入れや、日本舞踊の先生を招いたり、敬老会やクリスマス会の行事の実施など、入居者の楽しみや気晴らしを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日には、出来るだけ職員と一緒に散歩に出かけるようにしている。希望があれば買い物やドライブに職員が同行したり、全員でお花見に行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフが見守りを徹底し、鍵をかけないケアの実践に取り組んでおり、日中は常時施錠していない。2階から1階へはエレベーターか階段を使用して降りることになっているが、階段の方は転倒などの危険性も考え、シャッターが閉められており、通常はエレベーターを利用している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施している。防災訓練には消防団にも協力してもらい、さらには運営推進会議を通じて、防災時の避難について近隣の住民に協力をお願いし、関係を図っている。		2階のシャッターに関して、災害時に開かなくなってしまう危険性はないかということまで含めて、ホームとしての対策を再度見直す必要があると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に合わせ、食事を刻み食にしたり補助器具を使用しながら介助している。入居者ごとに食事や水分の摂取量を記録し、職員がその情報を把握し、不足している場合は補食を提供している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく、清潔で居心地のよい雰囲気がある。入居者と職員が一緒に作った季節を感じさせる作品や、職員が描いたその月に誕生日を迎える入居者の似顔絵などが壁に掲示されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族の要望を聞き、仏壇やタンスなど使い慣れたものを居室に持ちこみ、本人が居心地良く生活できるようにしている。		